

排気ダクト等の点検をしましょう!!

維持管理が徹底されていない排気ダクト等は、内部に多量の油脂等が堆積し、延焼ルートになるおそれがあります。清掃の必要な時期等を判断するために、下表を参考に店舗の実態に応じた点検表により点検を実施しましょう。点検の頻度は、天蓋やグリス除去装置など外観から確認できる部分は日常的に、排気ダクト内部など外観から確認が難しい部分は概ね1年ごとに点検しましょう。

※ 点検頻度は、あくまでも目安です。店舗の規模や機器の使用状態に応じた頻度としてください。

排気ダクト等の付属設備に係る点検表

部 位		点 検 方 法	点 検 の 要 点	確認欄
天 蓋		目視により確認する。	ア 内面にワックス状の油塵(油の混じったほこり)等の付着がないか。 イ 変形、損傷、腐食等がないか。 ウ 樋に油脂分等の溜まりがないか。 エ オイル抜きプラグから油漏れがないか。	
グ リ ス 除去装置	フィルター部分	フィルター部分を取り外し、目視により確認する。	ア 油塵の付着により目詰まりしていないか。 イ 変形、損傷、腐食等がないか。 ※ 上記確認後、正しい位置に取り付けられていることを確認する。	
	フィルターケース(Vバンク)部分	フィルター部分及びグリス回収容器を取り外し、目視により確認する。	ア 内面にワックス状の油塵等の付着がないか。 イ グリス回収容器の油量に余裕があり、油漏れがないか。 ウ 油送パイプに詰まりがないか。 エ 変形、損傷、腐食等がないか。	
防火ダンパー (火炎伝走防止装置)		グリス除去装置のフィルター部分を取り外し、又は点検口から目視により確認後、温度ヒューズ部を取り外し、作動状況を確認する。	ア 羽根、バネ、温度ヒューズ部に油塵、錆び、ほこり等の付着がないか。 イ 変形、損傷、腐食等がないか。 ウ 油塵の固着がなく、円滑に作動するか。 エ 温度ヒューズ部の劣化がないか。	
排気ダクト (天蓋部分から目視できる範囲)		グリス除去装置のフィルター部分を取り外し、目視により確認する。	ア 内面に油塵等の付着がないか。 イ 変形、損傷、腐食等がないか。	
排気ダクト (上記以外の範囲)		点検口から、目視により確認する。	ア 内面に油塵等の付着がないか。 イ 変形、損傷、腐食等がないか。	
排気ファン・たわみ継手		点検口から、目視により確認後、排気ファンを作動させ運転状況を確認する。	ア 羽根車、ケーシングに油塵等の付着がないか。 イ 変形、損傷、腐食等がないか。 ウ Vベルトの摩耗、亀裂、緩みがないか。 エ プーリーの摩耗、損傷がないか。 オ 運転音に異常がないか。 カ 異常振動がないか。	
自動消火装置		甲種若しくは乙種の第3類消防設備士又は第1種点検資格者による点検と併せて、目視による確認を実施する。	ア 消火薬剤放出口はキャップ等の覆いが確実に設けられており、油塵等の付着、目詰まりがないか。 イ 感知部に油塵等の付着がないか。 ウ 変形、損傷、腐食等がないか。	

排気ダクト等の清掃をしましょう!!

延焼危険を排除するためには適切な清掃の実施が必要です。

「排気ダクトの点検をしましょう!!」で行った点検結果に基づき、下表を参考に店舗の実態に応じた清掃をしましょう。

排気ダクト等の付属設備に係る清掃要領

部 位		清 掃 要 領	確 認 欄
天 蓋		ア 天蓋下の器具等の保護のため養生ビニール等で保護 イ 洗剤を塗布後にナイロンタワシ等により清掃 (必要に応じスクレイパー(※)、ステンレスタワシ等を使用) ウ 樋はスクレイパー、洗剤等により清掃 エ 雑巾ウエスで仕上げ拭き ※ 亜鉛鉄板製天蓋は必要に応じ清掃後に耐熱塗料塗装	
グ リ ス 除去装置	フィルター部分	ア 付着した油塵をブラシ等で粗方除去 イ 洗浄用洗剤入りの水槽に漬け置き ウ 油脂分溶解後に水道水で洗浄 エ 完全に乾燥後に取り付け オ 廃液は中和した後に排水 (イ～オの工程を「漬け置き洗浄」という。以下同じ)	
	フィルターケース (Vバンク)部分	ア フィルターケースを分解し、付着した油塵をブラシ等で粗方除去 イ 漬け置き洗浄による清掃	
防火ダンパー (火炎伝走防止装置)		ア 付着した油塵をスクレイパー等で粗方除去 イ 洗剤を塗布後にナイロンタワシ等により清掃 (取り外せるような場合には、漬け置き洗浄による清掃) ウ 温度ヒューズ劣化の場合は交換	
排気ダクト		ア スクレイパー等による清掃 (汚れが少ない場合は、洗剤を噴霧しナイロンタワシ、ステンレスタワシ等により清掃し、雑巾ウエスで仕上げ拭き) イ 汚れに応じて、洗剤等を使用した清掃を実施	
排気ファン・たわみ継手		ア 清掃の前に排気ファン用ブレーカーを切る イ 羽根車はスクレイパー等による清掃 (取り外せるような場合には、漬け置き洗浄による清掃) ウ ケーシングはスクレイパー等による清掃後、タワシ等による清掃、雑巾ウエスで仕上げ拭き (必要に応じて、高圧洗浄機を使用して清掃) エ たわみ継手は、洗剤を塗布後にナイロンタワシ等を使用して清掃	

※ スクレイパーとは、付着、堆積しているものを削ったり、こそげとるためのへら状の器具をいいます。

